

研究名

血液透析患者におけるセフトリアキソンの使用実態と抗菌薬関連脳症に関する検討

1. 研究の対象

令和4年4月から令和5年3月（予定）までに、血液透析患者においてセフトリアキソンが投与された症例を対象。

2. 研究目的・方法

セフトリアキソンの排泄経路は、およそ半分は尿中に排泄され、残りは胆汁中に排泄されると言われており、腎機能障害があっても投与量の調整は不要とされている。また、タンパク結合率が高く血液透析では除去されにくい。添付文書では、通常用量1 g～2 g/日、高度腎障害患者は1 g/日を超えないことと記載されている。一方、サンフォード感染症治療ガイド2022では、腎機能障害時も通常用量と同じ投与量が記されている。当院でも、血液透析患者などに通常量の1 g～2 g/日が投与されている。また、セフトリアキソンの重大な副作用として精神神経症状が報告されている。精神神経症状は、高度腎障害患者での発現が多数報告されている。そこで今回、血液透析患者において、セフトリアキソン2 g/日の投与による安全性についてセフトリアキソン1 g/日を投与した患者と比較検討した。

令和4年4月から令和5年3月までに、血液透析患者においてセフトリアキソンが投与された症例を対象に、年齢、性別、投与量、感染症名、AST、ALT、抗菌薬関連脳症の診断の有無等を後方視的に調査した。

3. 研究に用いる情報の種類

電子カルテ患者情報（後向き研究）

4. 外部への情報の提供

研究結果は学会等で発表を予定していますが、登録された患者の個人情報は個人が特定できないよう匿名化し、パスワードをかけて厳重に管理されます。

5. 研究組織

研究機関名：済生会横浜市南部病院

研究責任者：薬剤部 細田 菜摘

6. お問い合わせ

本研究にご質問、または臨床研究の参加を希望されない場合は下記連絡先までお問い合わせください。

病院代表：045-832-1111

担当者：薬剤部 細田 菜摘

松本 勝城

海野 明子

長澤 彩華

深沢 貴志